

サクラソウの展示

国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑 特別企画 「伝統の桜草」

平成14年度より、「伝統の桜草」と題して、サクラソウの展示を行っています。

「伝統の桜草」とは、江戸時代中頃以降、人の手によって野生種の中から変わった花を探し出して栽培し、作りあげられてきた一連のサクラソウのことです。

花の色は紅色から白色、花の咲き方も平咲きからつかみ咲きまでとさまざまです。

こうした多様な花色・花形のサクラソウを展示するとともに江戸時代後期の鑑賞法である桜草花壇の再現や、近年作出の八重咲きの品種、野生系の品種も展示します。また、栽培方法や楽しみ方などをパネル等で紹介します。

開催期間 平成24年4月17日（火）～5月6日（日）
※4月23日（月）休苑

会場 国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑
〒285-8502千葉県佐倉市城内町117番地

問い合わせ先 043-486-0123（代）



▲桜草花壇



▲展示風景

国立科学博物館 筑波植物園 さくらそう展～江戸が愛した桜草～

平成24年度の「さくらそう展」では、多様な園芸品種の中から選りすぐりの品種を展示するとともに、野生サクラソウからどのように園芸品種が多様になってきたのかを“江戸”をキーワードに紹介します。

現存する最古の品種である「南京小桜」や、様々な品種を常時100品種以上展示します。また、下記の内容でセミナーの開催や、展示案内の実施を予定しています。

○セミナー

「サクラソウなどの園芸植物の花の色の多様性」岩科司（国立科学博物館）

日時：4月28日（土）13：30-15：00

○展示案内

4月21日（土）13：30-14：30 大澤良（筑波大学）
22日（日）13：30-14：30 半田高（明治大学）
30日（月・祝）13：30-14：30 水田大輝（筑波大学）

開催期間 平成24年4月21日（土）～30日（月・祝）
※4月23日（月）開園

会場 国立科学博物館 筑波実験植物園
〒305-0005茨城県つくば市天久保4-1-1

問い合わせ先 029-851-5159（代）



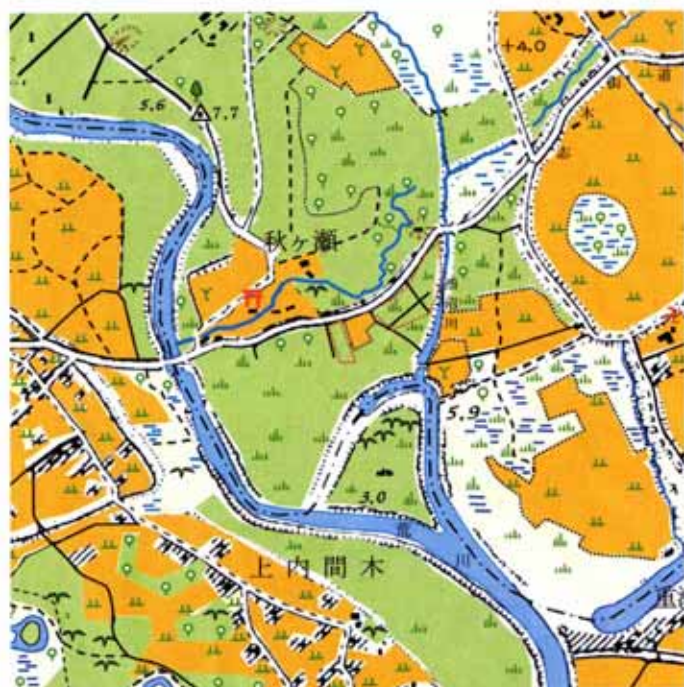
▲南京小桜



▲100品種以上の展示

田島ヶ原の自然環境の今と昔

さいたま市文化財調査専門員 磯田 洋二



▲1929年(昭和4年)



▲2003年(平成15年)

田島ヶ原サクラソウ自生地は、大正9年(1920年)に国の天然紀(記)念物に指定されてから、今日までに90年以上も経っています。その間に指定地周辺の自然環境が著しく変化したため、サクラソウなどの生育に好ましくない影響がいろいろと出ていると言われていました。

それでは、自然環境がどのように変化したのでしょうか。田島ヶ原のサクラソウ群生地が、国の天然紀(記)念物に指定された当初(1929年)と、周辺が公園化された後の2003年(平成15年)について、それぞれの地図と風景写真を並べて比べてみました。

地図を見ると、川の流れや道路などが変化していることに気付くと思います。そのような変化を知ることも大切なことですが、地域全体の自然環境がどのように変化したのかを知るために、自然環境と人との関わりの程度によって、次のように4区分して、色分けしました。

- 水溜りの出来る低湿地
- 人との関わりが少ない天然の疎林や草地
- 人との関わりが多い桑畑・田畑・芝地など
- 市街地

あらためて地図を見ると、指定当初(1929年)には、荒川の左岸一帯に人との関わりが少ない天然の疎林や草地 が広がり、ところどころに水溜りの出来る低湿地 があり、これらの土地の外側を人との関わりが多い桑畑・田畑・芝地など が取り巻いています。

2003年(平成15年)になると、人との関わりが少ない天然の疎林や草地 は減って荒川沿いに残るだけとなり、水溜りの出来る低湿地 は消えています。これらの土地が減ったり消えたりした所は、人との関わりが多い桑畑・田畑・芝地など に置き換えられ、指定当時に人との関わりが多い桑畑・田畑・芝地など であった場所は、市街地 に変わっています。

この変化は、人の立場から見れば開発が進んだということですが、自然環境の立場から見れば自然破壊が進んだということになります。田島ヶ原サクラソウ自生地は、広大な天然自然の中で育まれてきたものなので、その自然が失われると存在することが危くなるのです。

現在、この自然環境の変化から田島ヶ原サクラソウ自生地を救う方法が研究されています。